

育成を目指す資質・能力

- 国名や行きたい場所について、聞いたり言ったりすることができる。また、それらを書き写すことができる。
- 行きたい国や地域について理由も含めて伝え合う。
- 他者に配慮しながら、行きたい国等について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりしようとする。

ICT活用のポイント

- ICT端末を活用し、個別に既習語句や表現を繰り返し聞き聞かせることにより、自己のペースで学習を進めることができる。
- 遠隔交流校の児童とICT端末を活用したやり取りや発表を行うことで、言語活動の充実を図ることができる。

事例の概要

本校（A校）は小規模校であり、コミュニケーションを図る相手が限られる。より対話的な学びを実現するために、単元終末の言語活動において、ウェブ会議ソフトを活用し、交流校同士の遠隔協働学習を実施した。

○対象学級 A校（本校）：児童3人、 B校（交流校）：児童12人

○単元のゴール

「旅行会社の社員になりきって、おすすめの国を紹介したり行きたい国を伝えたりしよう。」

○ICT端末の主な活用場面（①～③）

①【導入・Small Talk】

「日本のおすすめの地域」をテーマにした学級担任とALTのデモンストレーションを視聴した後、オンラインでB校の児童と1対1のSmall Talkを複数回実施。

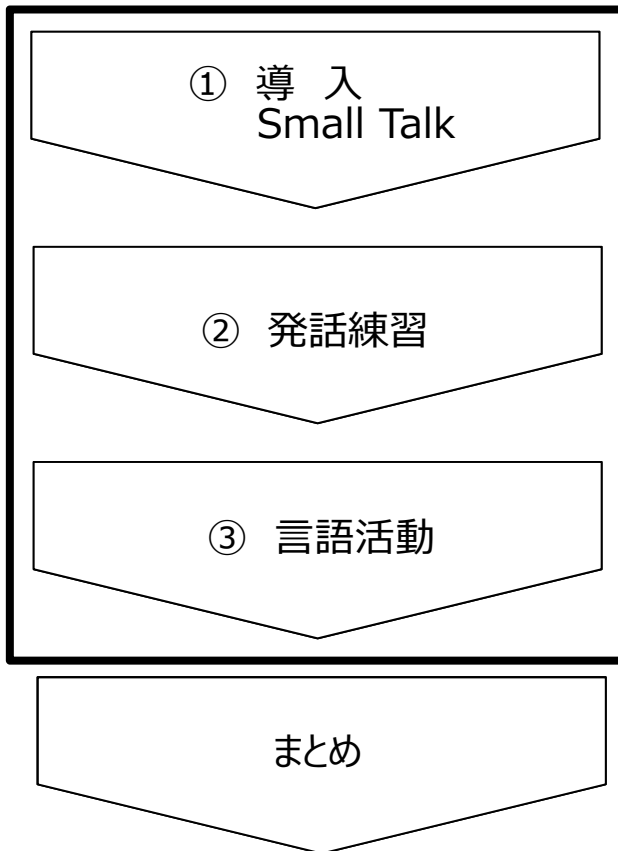
②【発話練習】

デジタル教科書の絵辞書やALTが作成したオリジナル動画を個人のICT端末で視聴し、既習語句や表現を自己の課題に応じて個別に練習。

③【言語活動】

ICT端末を使用し、自作のパンフレット等を示しながら、交流校の児童に向けて、自分の「おすすめの国」を紹介。

大型スクリーンを使用し、ウェブ会議ソフトで交流校の児童の「おすすめの国」の発表を視聴。



小学校・第5学年・外国語科・I want to go to Italy.②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【事例におけるICT活用の場面③】



① Small Talk

遠隔による1対1のやり取りを相手を替えて複数回実施。題材を前時に学級内の友達同士で扱ったもの（日本のおすすめの地域）にすることで、初対面の相手とも意欲的にやり取りすることができた。

② 発話練習

本時の言語活動で使用する基本表現については、ALTがオリジナル動画を作成し、ファイル共有機能を用いて、ICT端末で個別に視聴させた。それにより、自己の課題に応じた練習を行うことができた。

③ 言語活動

「おすすめの家」を発表し合い、聞き手側には「行きたい国」を選ぶという目的意識を持たせた。そのことにより、児童は画面越しの相手にも、より分かりやすく伝わるように相手に配慮した発表を行った。

○ICT活用の留意点

ICT端末を効果的に活用するためには、その活用場面や目的を明確にするとともに、それに要する時間などを綿密に計画する必要がある。それに伴い、授業の計画段階で活動内容全体が精選され、目標達成に向けた効果的な指導につながった。

【活用したソフトや機能】 プレゼンテーションソフト、ウェブ会議ソフト、ファイル共有機能